



JPNICにおけるAS番号割り当て 正式サービス化について

JPNIC AS番号割り当て正式サービス化チーム
橋 俊男



経緯

- 1997 JEPG/IPにて割当を実施
- 1997 JPNICに業務を移管するが制度化に至らず問い合わせに応じて割当を実施
- 1999 APNICに業務を戻すことを含め検討したが非公式サービスとして継続することとした
- 2001 現在に至る



正式サービス化の理由

- 状況の変化
 - 割当数の増加
 - 確認作業の増大
 - それに伴う工数の増加
 - APNICへのおかわり
 - コストリカバリの必要性
 - 業務に対するコストは作業に見合った分だけ必要であり、ゼロというわけにはいかない



非公式サービスで充分か？

- 制度化が不十分
- 正式なドキュメントがない
- データベースのメンテナンスがされていない



IPアドレス検討委員会にて検討し、妥当であると判断

正式なサービス化を決定



AS番号割当正式サービス化チーム

- JPNICの「専門家チーム」制度によって発足
IP事業部から依頼され、サービス検討, ドキュメント作成を実施
- メンバー
 - 前村 昌紀 (イクアント) -- チェア
 - 友近 剛史 (NTTコミュニケーションズ)
 - 橘 俊男 (あにあにどっとこむ)



サービス対象

- 日本国内に存在する自律ネットワークを運営する組織のうち....
 - 自律ネットワークを運用する技術的能力を持つ
 - 割り当てに関する手数料を支払うことができる
 - AS番号に関するJPNICデータベースの保守・更新が行える

この条件をすべて満たす組織を対象とする



AS番号割り当ての条件

- 自律ネットワークがBGP(Border Gateway Protocol)を利用して他の自律ネットワークとの間で外部経路制御情報を交換すること
- 自律ネットワークの外部経路制御ポリシーが、他のいかなる自律ネットワークに委ねても実現が困難な、固有のものであること
 - 典型的には、他の一つの自律ネットワークのみと接続するのではなく、複数の自律ネットワークとの間でBGPにより接続し、外部経路制御情報の交換を行う等があげられる



料金

- 割当手数料として徴収
 - JPNICにおける業務コスト回収のため
 - 金額は現在検討中



メンテナンスフィー

- 徴収しない方向で検討中
- 今後のAPNICのポリシー変更によってメンテナンスコストが徴収される可能性もある



割り当て後の作業

- 割り当てたAS番号は定期的に利用されている事を確認する